

令和7年度第1回横浜市子どもの貧困対策に関する計画推進会議 会議録	
日 時	令和7年8月29日（金）午後2時00分から午後3時22分まで
開催場所	横浜市庁舎18階みなと4・5会議室（オンライン開催）
出席者	青砥 恭委員、早野真知委員、高橋敬太郎委員、中西英一委員、濱田静江委員、湯澤直美委員、池田正則委員、篠崎智恵委員、石神 光委員
欠席者	松橋秀之委員、井上智恵子委員
開催形態	公開（傍聴者0人）
議 題	1 令和6年度の計画の振り返り及び令和7年度の重点取組の進捗状況 2 社会的養護自立支援実態把握事業について 3 「第3期横浜市こどもの貧困対策に関する計画」の策定について
<p>1 令和6年度の計画の振り返り及び令和7年度の重点取組の進捗状況について</p> <p>○事務局 資料3-1、資料3-2に基づき説明</p> <p>○事務局 これまでの説明の中でご意見、ご質問等、何かございますか。ないようでしたら、一旦先に進めさせていただきます、また後ほど意見交換させていただきたいと思っております。</p> <p>2 社会的養護自立支援実態把握事業について</p> <p>○事務局 資料4に基づき説明</p> <p>○事務局 ご意見、ご質問等あればお願いいたします。</p> <p>○早野委員 報告ありがとうございました。弁護士の相談というのはすごくいい取組だと思っておりますが、例えばファイナンシャルプランナーですとか、生活について、今後のお金のことを相談できる取組も入れてみてはどうかと思いました。私どものセンターでも、女性の経済面や生活設計といった相談事業を行っていましたが、やはりお金についての学びというのがなかなかないと感じております。自分の生活、それから将来の見通しなどの知識が不足されている場合もあり、そういうところも自立につながるのかなと思っております、ご提案させていただきます。</p> <p>○事務局 今のご提案は本当にとっても重要で、退所後児童もそうですが、入所中の児童もそういったお金の使い方の練習はするのですが、不安が大きいという声も多く、実際、今、拠点事業でも、常駐はしていませんが、ファイナンシャルプランナーにつながるような取組は行っております。そういったところも今後も力を入れていきたいと思っております。</p> <p>○早野委員 退所後もそういったところが使えるといいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>○事務局 そのほか、委員の皆様、何かございますか。よろしければ、一旦説明を進めさせていただければと思います。</p> <p>3 「第3期横浜市こどもの貧困対策に関する計画」の策定について</p> <p>○事務局 資料5に基づき説明</p> <p>○事務局 計画策定の件につきまして説明をさせていただきました。委員の皆様からご意見、ご質問等あればお願いいたします。</p> <p>また、全体を通して、今までのご説明も含めて、何かご意見、ご質問等あればと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>○高橋委員 報告、説明、どうもありがとうございました。丁寧な施策が実施されているということにまず敬</p>	

意を表したいと思います。報告等を伺って、教えていただきたいところがあるのでお願いします。一つは、資料の中で困難を抱える若者に関する部分が幾つかありましたが、私たち、横浜市社会福祉協議会は、地域の中で福祉活動をすることで身近な地域の支え合いを進めるというようなことを理念にしている団体ですが、その関わりの中で、例えば働きづらいつか家で閉じ籠もりがちだという方々が若者サポートステーション等で集われています。そうしたところに来てください、そこで相談を受けますという施策についてはよく理解ができたのですが、そこからのエグジット、こういうふう卒業していくというところについてはどのようにお考えでしょうか。例えば就職のサポート、働きやすい職場を見つけるアドバイスであるとか、何かしらのエグジットのところをもう少し伺いたいところです。

もう1点ですが、施策ごとの柱のところ、学校と地域の連携・協働の推進というところがありますが、学校とのやり取りで、民生委員さんや主任児童委員さんも含めて学校協議会等でご尽力されていると思います。民生委員さんから聞く話ですが、学校協議会などに呼ばれて学校の中で話はできていて、そうしたやり取りはあるのだが、その子の家の近くで、生活の場面のところに学校が来てくれるかという、なかなかそうでもない。言い方が難しいのですが、学校の中ではなく、学校の外に出て、何かしら一緒にやるという場面が少ないということをよくお聞きします。今日は学校や教育委員会の方々もいらっしやっていると思うので、学校と地域との対応といえますか、地域の中で支えるということもうたわれているところを、今年度の事業計画を含めてご説明いただきたいなところです。

○事務局 ご質問ありがとうございます。若者サポートステーションのことでお話をさせていただきますと、サポートステーションの中では、事業としては、職業的自立に向けた相談ですとか就労支援セミナーの開催、ある意味しばらく外に出ていなかった方に対しての体力づくりですとか学び直し、そしてジョブトレーニングなどもやっています。

実際のその支援による効果ですが、基本は職業に結びつくということ、ここにお越しいただいている方も私どもも、やはりそれを望んでいらっしやるかと思えます。なかなかそうはいかないとしても、例えば職業訓練なども進路決定ということでその方の次の一歩というふう考えておりますし、結果として医療機関とか区役所にかかるという方もいらっしやるのですが、いずれにしても、その方が次の改善が見られたということがサポートステーションでも図られると、それはサポートステーションとしても、私どもとしても、その方の次の一歩を後押しができたのではないかと考えています。

○高橋委員 居場所としての大切さもありませんし、その後に行く可能性みたいなところがその中で見いだしていければさらにいいなと思うので、引き続き一緒にやっていければなと思うところです。ありがとうございました。学校のほうはどうでしょうか。民生委員・児童委員の見守りや相談活動等というのも報告にもありましたが、情報提供はどのような感じで行われているのか、あるいは、そこに向けてこうしたやり方で変えていくというような方向があるのか、もしその辺があれば補足いただくとありがたいです。

○事務局 3月まで中学校の学校現場にいまして、今お尋ねの民生委員さんとのところでは、昨年度までも幾つかの学校で、やり方は様々ですが、学校運営協議会でもちろん入っていただいて、その場での情報交換等もございますし、ブロックによっては中学校ブロックで小学校の情報も合わせるような形で情報交換をしている学校があるということも把握はしております。ただ、もちろんそこで全てが整うわけではありませぬし、なかなかセンシティブな課題や問題を抱えている子たち、また

は家庭ということもございますので、ケース・バイ・ケースになりますが、基本的には、学校運営協議会、学校・家庭・地域連携事業、学地連事業というような枠組みで、各中学校区において情報交換がなされているかなと思います。個々のケースになってきますと、児童支援専任や生徒指導専任の教員が中心となって、間に入りながら情報交換、共有しているというのが現状かなと思います。

○高橋委員 学地連の活動などは本当に大変だと思いますし、先生方が本当に忙しいということも地域の方々にはよくご存じです。一方で、地域で本当に良心的に子どもたちの様子を見守っている方々が知っていれば、うまく情報共有できて、いろいろな形で力を貸してくれていますし、可能性も広がると思います。うまく地域の方々を巻き込んでいくような形で情報発信などを引き続きお願いできればなと思うところです。

○事務局 そのほかはいかがでしょうか。中西委員、お願いいたします。

○中西委員 今お話のありました学校からの情報共有ですが、私の周りではあまりなく、学校と密にやっている方には、学校のほうからここの地区のこの子を見てほしいという話はあるのですが、それは本当に稀なケースかと思います。こどもの学年が上がっていく途中で、学校長が替わると情報が出なくなったり出たりという状況なので、事情は詳しく分かりませんが、もっと地域の人に見てもらいたいのではないかと考えています。

また、こどもの問題は大変センシティブなので、主任児童委員は、情報を一切外に出さないようになりかなり気を遣っていますが、民生委員さんで高齢の方を中心に支援されているような方の中には、少し気軽に他の人に話をされることがあるので、同じ民生委員ですが、こどもの話をセンシティブに扱うことが分からない人には情報を共有しにくいと思うこともあります。その辺りは各民生委員さんに周知していただけたらいいなと思います。

○事務局 参考にさせていただければと思います。そのほか、何かご意見、ご質問等、全体を通していかがでしょうか。

○湯澤委員 令和6年度の計画の振り返りなども詳細にお示しいただきまして誠にありがとうございました。市の取組の状況の理解を深めるために、今期のこの振り返りの中で、市として特に取組上、課題といますか、もっと力を入れていくべきところはどんな点にあるかというようなことを教えていただけますでしょうか。

○事務局 取組が多岐にわたって、所管課もかなり多岐にわたっているところで、今回取りまとめてご報告はさせていただいております。その中で、特にこれがというよりは、それぞれの事業の中にそれぞれ課題がありますので、引き続きそれぞれの所管課がしっかりニーズを把握して、しっかり課題を認識した上で今後も進めさせていただきたいと思います。

○湯澤委員 了解いたしました。今後の計画策定の推進などに当たって特に重点的に力を入れていかなければならない分野がどのあたりかなど、また引き続きご検討いただいたものを教えていただければと思います。

○事務局 先ほどご説明のとおり、また来年度、次期計画の策定を進めてまいりますので、皆様のご意見もいただきながら進めていきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

高橋委員から挙がっていたと思います。お願いできますでしょうか。

○高橋委員 先ほどの社会的な養護が必要な児童あるいは生徒の方々のアフターケア・インケアに関するアンケートのところで伺いたいのですが、退所者調査の不安と支援というところで、退所後に役に立ったと感じた支援で日常的な雑談・相談が第1位で31.6%というのがありましたが、これは誰か相談

する機関にした日常的な雑談・相談なのでしょうか。それとも、日常的に信頼できる方との話合いがやっぱり一番心を穏やかにさせるといったアンケートの答えだったのでしょうか。

○事務局 こちらの日常的な雑談・相談は、専門機関ではなくて周囲にした日常的な雑談・相談になります。

○高橋委員 そうしますと、何げない会話が一番心を穏やかにするのに役立つというようなアンケート結果かと思えます。これを見ますと、やはり制度的に、仕組みとして、こういった部分をカバーするのは非常に難しいことかと思えます。その中で、例えば退所した施設とのつながりみたいところで支えるような部分で、施設を出た子どもたちが何かあったら施設のほうからサポートを受けられるような、あるいはしっかりした大人の方のサポートを受けられるような仕組みも必要かと思えますが、そうしたサポートについて、イメージや施策があればお教え願えますでしょうか。

○事務局 相談支援を実施している居場所としまして、先ほど社会的養護自立支援拠点事業としてご説明をしたところで、「B4S PORT よこはま」という居場所があります。また、もともと暮らしていた施設や里親さんの方が頼りやすかったり、相談しやすかったりということもありますので、拠点事業以外に、もともと暮らしていた施設や里親さんとのつながりの事業や、退所してからも近くに住居を設定して、そこで自立に向かってサポートをしていくという仕組みもございます。そういった利用できる施設も増やしていきたいと考えております。

○高橋委員 生きるというか生活する上でのノウハウみたいところについては、どうしても体験や経験による部分が多いと思えます。社会的な養護を受けながら育った方々と、一般の家庭で育った子どもたちとの間で格差があることは皆さん想像されるどころかと思えますが、そういう経験や体験を豊かにするような、十分に経験や体験をすることができなかつた子どもたちに、体験や経験の少なさをフォローできるような施策や取組はどこかで予定されているのでしょうか。地域における体験や学習の機会の充実というあたりが当てはまるのかなと拝見していたのですが、経験がより豊かになる機会を提供するようなことが狙いとしてあるのか、併せて教えていただけますか。

○事務局 今のご質問は、社会的養護に限らずということでしょうか。

○高橋委員 そうですね。後段のところは生活に困窮している子どもたちというイメージで、社会的養護に限らず、ひとり親とか、あるいは外国籍の子どもたちは、どうしても経験や体験に違いがあるのではないかという印象を持っていますので、それを踏まえての話となります。よろしければ、後ほどご回答いただくのでも結構です。

○事務局 確認させていただいて、後ほど共有をさせていただければと思います。そのほかはいかがでしょうか。濱田委員、お願いいたします。

○濱田委員 夏休みも毎日暑い中ですが、皆さんの現場が支援をしてくださったおかげで、今年も子どもたちも大きな事故もなく、全部宿題をやり終えて胸を張って、本当に真っ黒な顔をして、できた制作物を抱えて登校できました。そうした中でも、いろいろと支えさせていただければいだけほど、経験不足や、社会的格差の真ただ中で、子どもたちが思春期で悩んでいる姿が浮き彫りになります。だからこそ、政策はとて大事なことですし、書き込んでいただくことも大事なのですが、それを実際に子どもたちの支援にどうつなげていくかというところが難しいところだと思っています。南区には貧しいところがたくさんあることもあり、知的にボーダーのこどもの支援をしていくというのは、学校もどこもみんな苦慮しているところです。ケアプラザを中心に、いろんな工夫ができてきたり、夏休みにいろんな試みが始められたり、学校だけではない、いろいろな工夫を、政策として書いていただくことは、職員の励みにもなります。政策や計画の策定は大事なことです。それを現場にどう下ろすかということは私たちの仕事であると思っています。それをどう振り返るのか

というのもとても大事なところで、皆さんの意見が職員を育てることにもなります。また、横浜市にはいろいろな計画がありますが、それを横に並んでつなげることができるのがこの計画の策定だと思っています。また、こどもがいろいろな意見を言ってもいいんだと、自分の権利の大きさを誰かが説明してくれているんだということが安心感につながるのかなと思います。こどもたちが自分の気持ちを言える拠点がたくさんできたことに心より感謝申し上げます。

○事務局 濱田委員のところでもやっていただいている、また、先ほどの高橋委員の体験や経験に関するご質問という投げかけのお答えにもなるかと思ひ発言させていただきますが、ご家庭の状況で、電車に乗ったことがなかったり、少し離れた大きな公園に行ったりすることがないといったお子さんの状況に応じて、寄り添い型生活支援事業において、事業所内から少し離れた体験活動の機会の提供を、それぞれの事業者さんのお考えの中で、お子さんを見守る過程の一つとしてやっていただいております。大変感謝しております。引き続きよろしく願いいたします。

それと併せまして、青少年育成課で担当しております青少年の地域活動拠点づくり事業というのがありまして、こちらは困難を抱えるお子さんに限定しているわけではありませんが、特に揺れ動きやすい中高生世代を中心といたしまして、気軽に集ってもらえる居場所という機能を前面に出しながら、スタッフによる体験活動の提供や、地域の方にもご協力いただいて多世代交流なども行っております。この拠点については今、横浜市全体で7か所しかないのですが、南区では青年館で行っておりますので、濱田委員のところも多分連携させていただいているかと思ひます。協働事業も併せて引き続きどうぞよろしく願いいたします。

○事務局 そのほか、皆様、いかがでしょうか。青砥委員、お願いいたします。

○青砥委員 幾つか質問と、それから今後の問題についてお話をさせていただければと思ひます。

横浜市は多岐にわたって、貧困を抱えたこどもたちの支援を制度的につくられているということについては、非常に敬意を表しているところです。今日もたくさんの方々の事業について各部署から所管から制度を説明していただきました。これはこれとして素晴らしいことだと思ひます。

一つ課題は、こどもたちは、貧困などの困難を抱えているこどもたちも、比較的そうでないこどもたちも、地域社会には一緒に学んで暮らしています。ですので、特にターゲット的に困難を抱えたこどもたちを社会的養護という形で支援していくことも必要ですが、これだけ制度がありますと、どの制度を選べばいいかという課題があります。誰がこの制度を生かす主体なのかということです。困難を抱えた人々やこどもたちが、自分で制度を見つける、相談をする、部門や部署や施設を探していくということはとても困難であるということ、これはもう言をまたないことです。ですから、制度をつくれればそれでおしまいということではありません。少し言葉を換えますと、誰でもそこを利用できて、その中で非常に困難を抱えたこどもたちや人々が、制度を選べる、自ら選択することもあるだろうし、サポートする人たちや専門職がいて、この制度を利用したらいいよということで制度を使っていくということもあるだろう。しかし、こどもや若者たち、それから困難を抱えた人々に自らそれを選択していきなさいということではなくて、受け止める場が地域社会に必要なのではないか。ですから、最初に必要なのは、地域にそういうこどもたちが誰でも来られるような場所を、一言で言うと居場所であり、ユースセンターであり、プラットフォームになるもの、それをやはり地域社会に幾つもそろえていくことが必要です。そこを利用する中で、どういう制度を使えばいいかということのアドバイスは大人や専門職や行政の方々がすることで、その選択をこどもや困難を抱えた人たちに押しつけてはいけないという気がいたします。誰でもこどもたちが遊び、学び、そしてそこでコミュニティーができる、そういう居場所でありプラットフォームになる

場所をつくる。そこで様々な体験も可能になる。理想的なことを申し上げているというふうに思われるかもしれませんが、僕自身、横浜市で幾つかの市民団体の活動に関わっています。僕はさいたままで活動しておりますけれども、僕自身の活動もそのプラットフォーム、ハブ拠点をつくることを目指しています。それがかなり出来上がっているなという実感があります。横浜にもあります。例えば希望ヶ丘などに、地域が丸ごとこどもの居場所、まち全体をこどもの居場所にしようという運動もされておられます。素晴らしいことだと思っていて、それに感動しているところですが、そういうイメージを持って活動する。大事なことは、行政が、横浜市が、まち全体をこどもの居場所にしていこうとか、そういう市民活動を支えることです。一つの事業や一つの制度をつくっていくというのではなくて、それを包括的に持続的にできるようなシステムに力点を置いた活動をしていただけないだろうか。ここに今日来られている方々も一人一人みんな素晴らしい活動はしておられますけれども、それを縦割りではなくて、まち全体にそれがあれば、かなり解決する。専門職もいる、支える市民もたくさんおられる。行政だけでは絶対足りないわけですね。さっきも学校と専門職の民生委員さんたちのつながりの問題もお話がありましたけれども、これは言われて随分長い話で、一向に改善しない話です。ですが、そこに地域社会という主体を置けば、そこをプラットフォームにすればいろんな関わり方ができてくるだろうと思います。そういうことも含めて、ぜひ少し視点を変えて、まちづくり、地域づくりという視点からこどもを支える活動を、時間はかかるかもしれないけれども、これだけ壮大な横浜市さんがこれだけやっておられるわけですから、決してこれはできないことではない。モデルもできています。ぜひその辺の視点もご考慮いただければありがたいと思います。

○事務局 非常に貴重なお話ありがとうございます。確かに難しいところはあるかと思いますが、まち全体がこどもの居場所というのは共感するところで、それができれば本当に素晴らしいなと思います。今日もいろんな部署から担当者が出席しておりまして、確かに横浜市にはたくさんの制度がありますが、それがそれぞれきちんとなつがるように、この計画もその一つの方法だと思っておりますが、そういったことができるようにこれからも頑張っていきたいと思っております。

早野委員、よろしくお願ひします。

○早野委員 今日皆さんの報告や今年度の事業の重点取組の状況というところをご説明いただいて、こどもの貧困というテーマで多岐にわたる取組があるということがよく分かりました。今、青砥委員もおっしゃっていましたが、先日、こどもの居場所、ようこそカフェの10周年の記念の活動報告会に参加させていただき、細く長く続けていくということの大切さを考えさせられました。私どもの施設でもこども居場所として遊びと食事の事業の共催をさせていただいています。食品の高騰等も含めて、続けていくためには補助金等々の支援がやはりかなり必要で、続けていくための予算についても支援をいただければなと思います。せっかく皆さんがいろんな活動をされていく中で、やはり続けるということがとても大事で、そこに居場所があるからこそ多分こどもたちが安心できると考えます。

また、経済的な格差もそうですが、経験の格差も含めて、こどもはかなり二極化しているのではないかと思っています。男女共同参画センターで女子の理工系進路選択の事業をしていたのですが、こどもに学習の意味をしっかりと動機づけをしていかないといけないと、それが貧困の連鎖の防止にもつながっていくことになると感じました。進路を考えるのには、高校生では遅くて、中学生や小学生、そういった小さいときから学習だけではなく、進路や将来について考える機会が必要です。地域の方とのコミュニケーションや、こういう大人になりたいというような、ロールモデルに

なる人が周りにいないと、どうしてもそこで動機づけもないまま過ごしてしまうのではないかと私は感じております。ぜひ学習支援と併せて、この後の自分の進路選択や、学習に対してそういう未来が待っているための動機づけも工夫していただけると、こどもたちも学習することの意味合いや、今後に向けてというところにつながりができるのではないかと思いますので、そういったところも期待したいところです。

○事務局 青砥委員がおっしゃったように、私どもの行っている事業や、一緒に活動していただいている団体の方や、また、居場所という位置づけになるような場も幾つもある状況の中で、やはり今の段階ですと、先ほどよこはまユースの取組のことも早野委員は言ってくださいましたが、それぞれが連携して取り組むことで、単体で行っていただいていることがさらにパワーアップするということと、あと、単体でそれぞれやっていくよりも一緒に連携してやっていったほうが経費という意味でも非常に効率的だということもありまして、青少年の地域活動拠点について先ほど申し上げましたが、居場所づくりを進めていくに当たりまして、そういった視点で大きな連携を今後できるだけ取っていきたいと思っています。また、そのときに大学生や高校生もこどもの居場所づくりなどに一緒に関わってもらうことによって、中学生や小学校の高学年により近いお兄さん、お姉さんがロールモデルにもなるのではないかと考えています。

すぐにはなかなか実現できないこともあるかと思うので、ぜひお力添えを賜ればと思います。活動自体の連携、そして関わっていただく世代の方も幅広くできればいいなと思って、今後取組を進めていきたいと思っています。

○事務局 池田委員、お願いいたします。

○池田委員 事業の資料も事業内容のまとめもありがとうございました。こうしてそれぞれに事業があるということは、事業それぞれに、対象の基準や、対象となる家庭の像があるということかと思っています。また、複合的な課題を抱えている世帯の場合には、様々な事業の応援について、交通整理や見立てが必要になってきます。アドバイザーがそばにいる方はまだいいかもしれませんが、情報が一括して載っているわけではないと思うので、いろいろ大変な状況の中で、保護者が自らこれだけのものを見つけるのは大変なことです。そうすると、地域ですとか、お子さんが中高生、小中高生ならば学校などの所属しているところなど、どこかでいろいろな制度について、横断的に知っている部署があってアドバイスできるような、複合的な困難状況に関して、全体を支援できるように、協働したり推進したりできるように整えていく必要があると思います。まずは、僕も含め、今日の委員の方々は、率先して制度の把握をしていかななくてはいけないなと思いました。

それから、次の計画の話に関連して気になったのですが、先程、青砥委員から、まち全体がこどもの居場所というような意識を持っていることのご紹介がありましたが、地域の合意形成をするためには、合意形成をしていくための議論の場、熟議みたいなものが必要ではないでしょうか。地域福祉保健計画を策定する際に地域の意向を協議したようなことです。最初は参加したい人だけでもいいと思います。1人が理解したらその1人が3人に伝えるなどで広がるのかなと思うので、そういう熟議を伴った地域の合意形成みたいな方法を考えてみてはどうでしょうか。

また、それぞれの用語をどういう意味で使っているか、例えば、皆さん先程から居場所という言葉が使われていますが、どういうところを指しているのか、人によって違いがあるようです。この計画でいうところのこの用語はこういう意味ですということを、計画策定にあたって提示できるといいかもしれません。経験や体験の話も出ましたが、自然体験に行かせることや、キッズニアに行かせることを体験だと思えば、地域活動で人と人とが関わること自体が体験、経験という

方もいると思います。経験や体験だとか、立つほうの自立、律するほうの自律だとか、居場所とは何かなど、用語はそれぞれの暮らしてきた価値観で、重なり合いつつ、違う意味合いで言っているかもしれないので、そこが気になります。第3回の計画をつくるときには、言葉の意味にぶれが生じないように、何らかの配慮をご一考いただけたらと思いました。

○事務局 来年度、皆様のご意見もいただきながら次の計画の策定をしまいたいと思っておりますので、ぜひ参考とさせていただきます。引き続きいろいろご指導をいただければと思います。そのほか、委員の皆様、何かございますか。

皆様、本日、たくさんいろんなご意見をいただきましてありがとうございました。皆様から頂戴したご意見を参考にさせていただきます。今後いろんな取組を推進してまいります。

それでは、最後に、事務局からご案内をいたします。会議の冒頭でご案内いたしましたが、本日の会議の記録につきましては、後日ホームページ上で公開をしていきますので、ご承知おきを願います。

次回のこの会議につきましては、年が明けて来年3月頃の開催を予定しております。別途ご案内をいたしますので、またよろしく願います。

本日の会議はこれもちまして閉会とさせていただきます。長時間、誠にありがとうございました。

資料	資料1-1 横浜市子どもの貧困対策に関する計画推進会議 委員名簿 資料1-2 横浜市子どもの貧困対策に関する計画推進会議 事務局名簿 資料2 横浜市子どもの貧困対策に関する計画推進会議運営要綱 資料3-1 令和6年度の計画の振り返り 資料3-2 令和7年度の重点取組の進捗状況 資料4 令和6年度（2024年度）横浜市社会的養護自立支援実態把握事業報告書概要版 資料5 「第3期横浜市こどもの貧困対策に関する計画」の策定について
特記事項	なし